郷土ゆかりの近現代文学史略年表

安政6年
坪内逍遥（愛知英語学校（現旭丘高校）に学ぶ　一八五九―一九三五）尾張藩太田代官屋敷（現岐阜県美濃加茂市）で生まれ、のち中村区に移住。明治18年に「当世書生気質」「小説神髄」を発表

元治元年
二葉亭四迷（名古屋県洋学校（現旭丘高校）に学ぶ　一八六四―一九〇九）尾張藩江戸邸（現東京都新宿区）で生まれ、のち中区に移住。明治20年、**坪内雄蔵**（逍遥）名で日本で初めての言文一致体による小説「浮雲」を発表

明治29年
野口米次郎（津島市生まれ　愛知第一尋常中学校（現旭丘高校）中退　一八七五―一九四七）象徴叙情詩集『Seen and Unseen』を米国で出版、脚光を浴びる。子息は芸術家のイサム・ノグチ

明治29年
小栗風葉（半田市生まれ　一八七五―一九二六）硯友社・四天王のひとり。「亀甲鶴」が半田醸造の賞を受ける

明治30年
金子光晴（津島市生まれ　一八九五―一九七五）二歳で中区に移住。関東大震災のあと東区清水の牧野吉晴宅に寄寓し、詩「水の流浪」を書く

明治30年
江戸川乱歩（愛知五中（旧瑞陵高校）卒　一八九四―一九六五）三歳で亀山から父親の転職に伴い中区栄に移住。四年制の日川尋常小学校（現栄小学校）卒業後（）うから少年雑誌を発行

大正元年
青木繁子（名古屋市生まれ　一八九四―一九七一）第一歌集『木霊』刊行

大正2年
沼波瓊音（名古屋市生まれ　愛知一中（現旭丘高校）卒　一八七七―一九二七）『獲音句集』刊行。のち第一高等学校で俳文学を講じる

大正2年
渡辺霞亭（名古屋市東区主税町生まれ　一八六四―一九二六）家庭小説「鴻巻」を大阪朝日新聞に連載、鴻巻模様が流行する

大正8年
伴野豪（名古屋市生まれ　C大（現名古屋商業高校）卒　一九〇一―一九二一）短歌同人誌「夏球少華」を中山伸らと創刊（二年「独立詩文学」に改称）

大正9年
葉山嘉樹（一八九四―一九四五）中区に移住し、名古屋新聞記者となる。のち千種刑務所内でプロタリア文学「海に生くる人々」等を書く

大正10年
都達夫（八高（現名大）卒　一八九六―一九四五）八高時代の白分をモデルに中国人留学生の苦悩を表現した小説「沈論」を上海で発表

大正11年
同人詩誌「青騎士」を、井口栄花・春山行夫・高木斐瑳雄・斎藤光次郎・稲川勝次郎（のち敬高）・三浦喜治・佐藤一英（2号より）らが創刊

大正11年
佐藤一英（中島郡祖父江町生まれ　一八九九―一九七九）詩誌「薬園」を金子光晴・サトウハチロー・平野威馬雄らと創刊。のち劇詩集『空洞頌』を刊行

大正11年
尾崎久彌（名古屋市生まれ　愛知一中で学ぶ　一八九〇―一九七二）個人雑誌「江戸」歌派研究」を刊行。歌人としても短歌雑誌「八少女」等で活躍し、若山牧水とのの親交も深かった

大正11年
永瀬清子（愛知県立第一高等女学校高等科（現明和高校）卒　一九〇六―一九九五）金沢から東区に移住。在学中から「詩之家」に参加、のち「コーヒーの進軍ラッパ」を発表

大正12年
小酒井不木（饗江町生まれ　愛知一中卒　一八八〇―一九二九）中区に移住。江戸川乱歩の「二銭銅貨」を高く評価し、推薦文とともに「新青年」に発表

大正12年
国枝史郎（一八八七―一九四三）西区に来住し、小酒井不木と親交。名古屋城を舞台に「天主閣の音」、新舞子に移って「新舞子の杜鵑」等を書く

大正12年
潤一郎三（名古屋市生まれ　C大中退　一八九二―一九三三）中区正木町を舞台にした「闇の微心中」を発表

大正13年
春山行夫（名古屋市東区主税町生まれ　C大で学ぶ　一九〇二―一九九四）詩「月の出る町」を発表

大正13年
佐々木味津三（設楽町生まれ　愛知一中で学ぶ　一八八六―一九三四）棋光・利一・川端康成らと「文藝時代」を創刊。のち「右門捕物帖」「旗本退屈男」などを書く

大正13年
木下杢太郎（一八八五―一九四五）愛知医科大学（現名大）教授となり、東区に移住

大正15年
中山伸（名古屋市生まれ　C大卒　一九〇三―一九九一）第一詩集『北の窓』を刊行

昭和2年
矢田津世子（一九〇七―一九四四）千種区に移住し「恨を秘め慰める女」を書く。のち「神楽坂」で女性として初めての芥川賞候補

昭和2年
小酒井不木、江戸川乱歩、国枝史郎、長谷川伸ら六名作組合「貶締社」を創立

昭和2年
久野豊彦（名古屋市東区白壁生まれ　愛知一中卒　一八九六―一九七一）川端康成たちと新興芸術派に参加、短編集『第一のレジャン』を刊行

昭和4年
山口山一郎生・亀山巌・井口正夫らがシュールレアリズム詩誌「Ciné」創刊

昭和4年
井口栄花（名古屋市生まれ　一八九六―一九二四）遺稿集『井口栄花詩集』刊行

昭和5年
阿部知二（八高卒　一九〇二―一九七三）第一評論集『主知的文学論』刊行

昭和6年
浅野梨郷（名古屋市生まれ　愛知一中卒　一八八九―一九七九）『梨郷歌集』刊行、敗後中部日本歌人会初代会員長となる

昭和7年
新美南吉（半田市生まれ　一九一三―一九四三）半田中学校（現半田高校）卒業後に書いた童話「ごんぎつね」が『赤い鳥』に掲載される

昭和7年
丸山薫（豊橋市在住　愛知四中（現時習館高校）卒　一八九九―一九七四）詩集『帆・ランプ・鷗』刊行

昭和7年
本多顕彰（名古屋市生まれ　八高卒　一八九八―一九七八）翻訳『文学の近代的研究』刊行

昭和8年
尾崎士郎（西尾市生まれ　愛知一中（岡崎高校）卒　一八九八―一九六四）「人生劇場　青春篇」を「都新聞」に発表

昭和8年
富安風生（豊川市生まれ　愛知四中卒　一八八五―一九七九）第一句集『草の花』刊行、日本藝術院会員

昭和9年
桐生悠々（名古屋市在住　一八七三―一九四一）「新愛知」主筆として活躍。守山区に在住し個人雑誌「他山の石」を発行

昭和11年
中条精一郎（名古屋市在住　一九〇七―二〇〇一）「一茶さん」（作曲中野二郎、歌有島通男）を作詞、コロナ・レコードから発売

昭和11年
高屋窓秋（名古屋市生まれ　一九一〇―一九九九）「馬酔木」を抜けて社会性の強い句集『白い夏野』刊行

昭和12年
富沢有為男（東海中学校（現東海高校）卒　一九〇一―一九七〇）「地中海」で第4回芥川賞受賞

昭和16年
太田清村（豊川市生まれ　一九〇三―一九九一）日田重英と師事。大野林火とは生涯の友で、「林火・清村」時代を作った。句集『穢国』刊行

昭和21年
丸山静（春日井市生まれ　八高卒　一九一四―一九七八）新日本文学会愛知支部を浅野紀美夫・はらだけじもと共に設立。のち評論集『はじまりの惑星』刊行

昭和21年
八高時代の同期、本多秋五・平野謙・荒正人・山室静・小田切秀雄らと「近代文学」創刊

昭和22年
本多秋五（豊田市生まれ　一九〇八―二〇〇一）文芸評論『戦争と平和』論』刊行

昭和22年
藤枝静男（八高卒　一九〇七―一九九三）「路」を「近代文学」に発表

昭和22年
平野謙（一九〇七―一九七八）文芸評論『島崎藤村』刊行

昭和22年
鈴木花蓑（半田市生まれ　一八八一―一九四二）「ホトトギス」雑詠欄で活躍。大正4年に上京、長く大審院の書記を勤めた。『鈴木花蓑句集』刊行

昭和23年
小谷剛（名古屋帝国大学付属医学専門部（現名大）卒　一九二四―一九九一）同人誌「作家」を中川区で創刊・主宰（平成3年第516号まで発行）、翌年「確証」で第21回（戦後第1回）芥川賞受賞

昭和24年
木全園詩・清水信・井沢純・川島学ら同人誌「北斗」創刊（平成31年3月で第655号まで発行）

昭和25年
稲垣足穂（一九〇〇―一九七七）同人誌「作家」に初寄稿、生涯で149作品を「作家」に発表

昭和26年
亀山巌（名古屋市生まれ　愛知県工業学校図案科（現愛知総合工科高校）卒　一九〇七―一九八九）「作家」の表紙を描き続け、エッセー集『裸体について』刊行。のち名古屋豆本を開板、以降144冊の豆本を刊行

昭和27年
杉浦明平（田原市生まれ　豊橋中学校（現時習館高校）卒　一九二二―二〇〇一）地元を舞台にした「ノリダ騒動記」発表。のち『小説渡辺崋山』で第26回毎日出版文化賞受賞

昭和28年
中山伸、「中部詩人サロン」を結成して、高木斐瑳雄・伴野憲らと「サロン・ド・ポエート」創刊

昭和28年
新村猛、**杉浦明平**・**丸山静**らと新日本文学会愛知支部を再建し、代表となる

昭和29年
永田正男・宇佐美遥雄・国司迅・岩崎宗治（愛知学芸大学（現愛知教育大学）卒　一九二二―一九九一）・城山三郎により「くれとす」創刊

昭和29年
饗庭孝男（南山大学卒　一九二〇―二〇〇七）らにより「近代批評」創刊

昭和30年
岡井隆（名古屋市生まれ　一九二八―一）塚本邦雄・寺山修司らと前衛短歌運動を起こす。のち『禁忌と存在』で第17回迢空賞受賞、日本藝術院会員

昭和32年
木全園壽（名古屋市生まれ　一九二〇―一九九四）「司文月俳諧師」を評論家の花田清輝が評価。のち「名古屋近代文学史研究会」を発足・主宰し、郷土の埋もれた作家研究を行う（平成29年第197号で終刊）

昭和33年
新村猛（名大教授　一九〇五―一九九二）『ロマン・ロラン』刊行

昭和34年
城山三郎（名古屋市生まれ　C大卒　一九二七―二〇〇七）愛知学芸大学在職中に「総合雑誌賞」で第40回直木賞受賞。のち『落日燃ゆ』で第9回吉川英治文学賞・第28回毎日出版文化賞受賞

昭和34年
辻夏美好（一九二二―一九八二）同人誌「東海文学」を千種区で創刊・主宰（昭和56年第80号で終刊）。のち『下々の女』で第11回田村俊子賞受賞

昭和35年
春日井建（江南市生まれ　南山大学中退　一九三八―二〇〇四）歌集『未青年』を刊行し、三島由紀夫が「若い定家を持った」と激賞。のち『友の書』『白雨』で第27回日本歌人クラブ賞・第34回迢空賞受賞

昭和37年
清水信（一九二〇―二〇〇七）鈴鹿市に在住し「現代作家論」「主人気質」を『近代文学』に発表、第3回近代文学賞受賞

昭和37年
北川透（碧南市生まれ　愛知学芸大学卒　一九三五―）詩と思想の同人誌「あんかるわ」創刊（平成2年第84号で終刊）

昭和39年
福永令三（名古屋市生まれ　明倫中学校（現明和高校）卒　一九二八―二〇〇二）「クレヨン王国の十二カ月」で第3回講談社児童文学新人賞受賞

昭和39年
谷川徹三（常滑市生まれ　愛知五中卒　一八九五―一九八九）『芸術の運命』刊行、法政大学総長。子息は哲人の谷川俊太郎

昭和40年
藤井重夫（一九二一―一九七九）「作家」に寄稿した「虹」で第53回直木賞受賞

昭和42年
八切止夫（名古屋市生まれ　愛知一中卒　一九一四―一九八七）独自の史観に基づく『官民殺し、光秀ではない』刊行

昭和44年
阿久根治子（名古屋市生まれ　愛知県立女子短期大学（現愛県大）卒　一九二二―二〇〇三）『やまとたける』で第16回サンケイ児童出版文化賞受賞

昭和45年
伊藤観魚（名古屋市生まれ　一八七七―一九六九）一時、河東碧梧桐を頼り上京し新派俳人として活躍。句文集『観魚』刊行

昭和45年
吉田知子（名古屋市立女子短期大学（現名市大）卒　一九三四―）「無明長夜」で第63回芥川賞受賞

昭和46年
豊田穣（一九二〇―一九九四）中日新聞社に勤め、「作家」に寄稿した「長良川」で第64回直木賞受賞

昭和47年
柏木義雄（愛知淑徳大学教授　一九二一―）『相撲』で第12回中日詩賞受賞

昭和48年
稲葉真弓（愛西市生まれ　津島高校卒　一九五〇―二〇一四）「蒼い影の傷み」で第16回婦人公論女流新人賞受賞、のち『エンドレス・ワルツ』で第31回女流文学賞受賞

昭和50年
宇佐美魚目（名古屋市生まれ　愛知一中卒　一九二六―二〇一八）句集『秋収冬蔵』刊行

昭和51年
山下智恵子（名古屋市生まれ　名大卒　一九三九―）「作家」同人。「埋める」で第19回婦人公論女流新人賞受賞

昭和55年
一色真理（名古屋市生まれ　一九四六―）詩集『純粋雑』で第30回H氏賞受賞

昭和55年
井沢元彦（名古屋市生まれ　一九五四―）「猿丸幻視行」で第26回江戸川乱歩賞受賞

昭和56年
尾辻克彦（旭丘高校美術科卒　一九三七―二〇〇四）南区を舞台にした「父が消えた」で第84回芥川賞受賞

昭和56年
堀田あけみ（あま市生まれ　名大大学院修了　一九六四―）中村高校在学中に「1980アイコ十六歳」で第18回河出書房新社文藝賞受賞

昭和57年
澤田ふじ子（半田市生まれ　愛知県立女子大学（現愛県大）卒　一九四六―）『陸奥甲冑記』『寂野』で第3回吉川英治文学新人賞受賞

昭和57年
辻真先（名古屋市生まれ　名大卒　一九三一―）『アリスの国の殺人』で第35回日本推理作家賞受賞、のち本格ミステリ作家クラブ会長

昭和58年
高柳誠（名古屋市生まれ　一九五〇―）詩集『朋宇宙／水晶宮／博物誌』で第33回H氏賞受賞

昭和59年
瑞坂彰三紀彦（名古屋市生まれ　旭丘高校卒　一九四八―二〇一三）『恋文』で第91回直木賞受賞

昭和59年
鳥井加南子（愛知県生まれ　一九五三―）「天女の末裔」で第30回江戸川乱歩賞受賞

昭和60年
宗田理（名古屋市在住　一九二八―）「ぼくらシリーズ」第1作となる『ぼくらの七日間戦争』刊行

昭和60年
藤堂知子（名古屋市在住　一九五〇―）「まじょ子」シリーズ始まる（平成30年まで全60巻）

昭和60年
山中智恵子（名古屋市生まれ　一九二五―二〇〇六）歌集『星肆』で第19回迢空賞受賞

昭和60年
山口洋子（名古屋市生まれ　一九二七―二〇一四）「涙歌の虫」「老梅」で第93回直木賞受賞

昭和61年
中部ペンクラブ（会長　浅井栄泉）発足

昭和61年
しかたしん（愛知大学短期大学部教授　一九二八―二〇〇三）『国境』（第一部）刊行。劇団「うりんこ」創設・主宰

昭和61年
高千穂遥（名古屋市生まれ　一九五一―）『ダーティペアの大逆転』で第17回星雲賞受賞、のち日本SF作家クラブ会長

昭和61年
清水良典（愛知淑徳大学教授　一九五四―）「記述の国家―谷崎潤一郎原論」で第29回群像新人文学賞受賞

昭和63年
清水義範（名古屋市生まれ　愛知教育大学卒　一九四七―）『国語入試問題必勝法』で第9回吉川英治文学新人賞受賞

平成元年
杉本章子（金城学院大学大学院修了　一九五三―二〇一五）『東京新大橋雨中図』で第100回直木賞受賞

平成元年
長坂秀佳（愛知県生まれ　一九四一―）「浅草アンジャ屋の嵐」で第35回江戸川乱歩賞受賞

平成2年
稲葉京子（江南市生まれ　尾北高校卒　一九三一―二〇一六）「白蛾」で第26回短歌研究賞受賞

平成2年
三枝千代（名古屋市生まれ　愛知県立第一高等女学校（現名古屋高校）卒　一九一八―二〇一七）『冬のかまきり』で第17回日本歌人クラブ賞受賞

平成3年
宮城谷昌光（瀋郡市生まれ　一九四五―）『夏姫春秋』（名古屋の海越出版社刊）で第105回直木賞受賞

平成6年
大沢在昌（名古屋市生まれ　一九五六―）ハードボイルド『新宿鮫　無間人形』で第110回直木賞受賞

平成7年
篠弘（元愛知淑徳大学教授　一九三一―）歌集『吾朔の旅びと』で第29回迢空賞受賞

平成8年
瀬尾育生（名古屋市生まれ　一九四八―）詩集『DEEP PURPLE』で第26回高見順賞受賞

平成9年
野沢尚（名古屋市生まれ　昭和高校卒　一九六〇―二〇〇四）「破線のマリス」で第43回江戸川乱歩賞受賞

平成11年
平野啓一郎（瀋郡市生まれ　一九七五―）「日蝕」で第120回芥川賞受賞

平成11年
茨木のり子（西尾高等女学校（現西尾高校）卒　一九二六―二〇〇六）詩集『倚りかからず』刊行

平成11年
梅原猛（知多郡育ち　八高卒　一九二五―二〇一九）「隠された十字架」「水底の歌」などで文化勲章受章

平成16年
神山裕右（愛知県生まれ　名古屋経済大学卒　一九八〇―）「カタコンベ」で第50回江戸川乱歩賞受賞

平成17年
中村文則（東海市生まれ　一九七七―）「土の中の子供」で第133回芥川賞受賞、のちアメリカでデビュー・グレイス賞受賞

平成18年
絲山秋子（一九六六―）名古屋に勤めた経験を持ち、「沖で待つ」で第134回芥川賞受賞

平成19年
栗本京子（名古屋市生まれ　一九五四―）歌集『けむり水晶』で第57回芸術選奨文部科学大臣賞・第41回迢空賞受賞

平成19年
諏訪哲史（名古屋市生まれ　一九六八―）「アサッテの人」で第50回群像新人文学賞と第137回芥川賞をW受賞

平成19年
夏樹静子（一九三八―二〇一六）名古屋市在住時の「Wの悲劇」などで第10回日本ミステリー文学大賞受賞

平成23年
島田修三（愛知淑徳大学学長　一九五〇―）『遠浪断想録』で第45回迢空賞・第1回中日短歌大賞受賞

平成25年
亀山郁夫（名古屋外国語大学学長　一九四九―）『謎解き『悪霊』』で第64回読売文学賞研究・翻訳賞受賞

平成28年
昭和31年に創刊した食の文化誌「あじくりげ」が5月号693号で終刊

平成29年
小島ゆかり（名古屋市生まれ　一九五六―）歌集『馬上』で第67回芸術選奨文部科学大臣賞受賞

平成30年
奥山猿布子（愛知県生まれ　一九六六―）『麦の幾重』で第37回新田次郎文学賞受賞

監修・郷土の文学研究会、関係協力者（平成31年3月現在）